



# HACHIYA

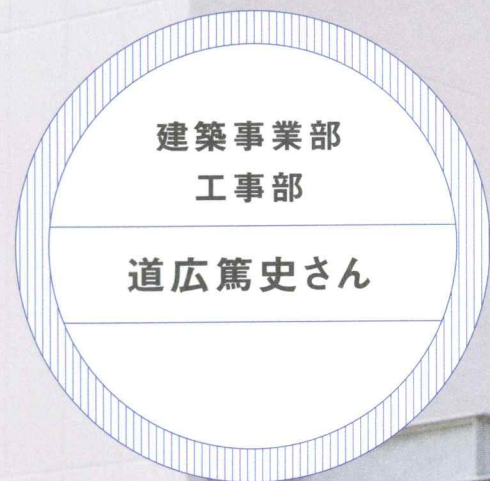
Construction Co.,Ltd.



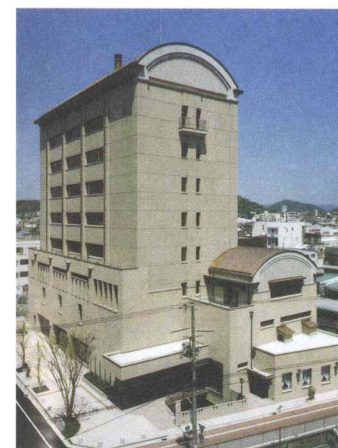
受付  
2020. 12. 17  
仲リアセンター

D





自分が思い描いた  
図面通りになっていく、  
そこが面白いなと……。



全国規模の会社か地元の会社か悩んだのですが、やっぱり小中高と育ってきた岡手で建設業ができれば一番いいかな、と思ったのが蜂谷工業に入社したきっかけです。

現在は総社市で、学校給食センターの新築工事をしています。壁の位置や鉄骨の柱の位置出しから、材料の段取りまで、いろいろやらせてもらっています。自分が位置出ししたところを、職人さんがその通りにしてくださって、思い描いていた通りになっていくのが面白いなと思います。

会社の雰囲気はアットホームというか、困ったときには、他の現場であっても先輩方みんなで助けてくださいます。会社全体のチームワークがいいと感じます。日曜日は資格(一級建築士)の勉強で学校へ行っています。それが無いときには、リフレッシュしたいので運動することが多いです。好きなスポーツはサッカーで、大学でもやっていました。なかなか時間が取れませんが、思いっきり楽しんでいます。

大手ゼネコンに就職した友人が今、オリンピックの選手村を造っていて、それをすごいと思う一方「人間関係が…」という悩みをよく聞きます。それに比べると、人間関係にストレスのない蜂谷工業は働きやすいと思います。

建設業はなくてはならない仕事だと思いますし、自分がその仕事を通して岡山の発展に役立つのが夢です。地域の方、お客様の役に立つ建物を造っていったらいいなと思います。



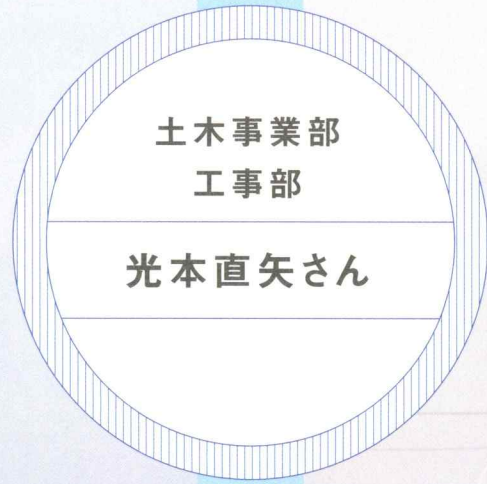




それが一番やりがいがあるなと…

仕事をやっていて、

地域の方や現場を通る人に感謝される。



土木事業部  
工事部

光本直矢さん



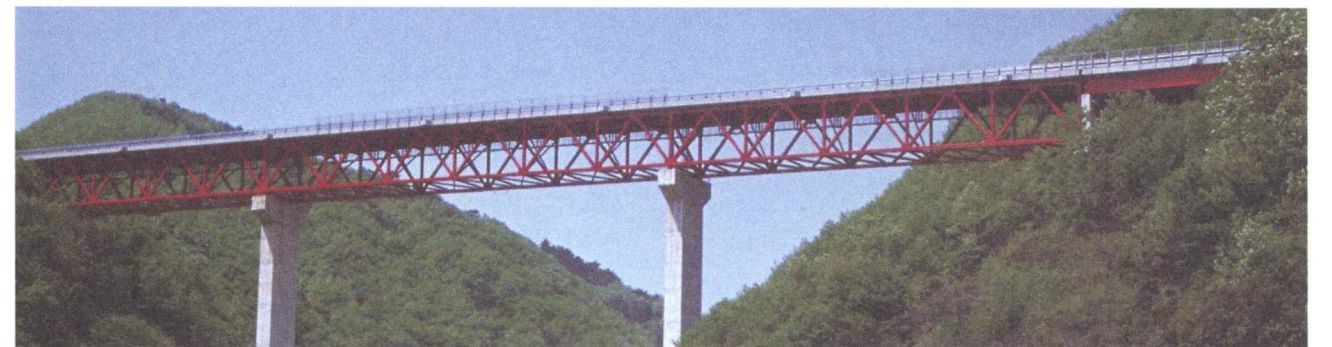
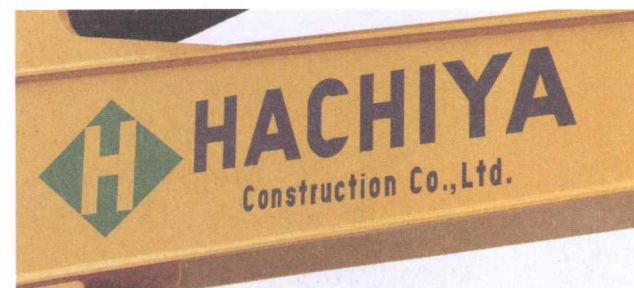
なぜか小さいときから、家の近くで重機が動いていた見に行くことが好きでした。幼稚園に通っていたときも、友達とスコップで砂場を掘ったり、塩ビのパイプに水を流したり、どこかで土木つながりのようなことをずっとやっていました。それから、みんなが使う道路や橋などを通して人の役に立つことがしたいと思い、岡山工業高校の土木科に入学しました。

大変な仕事も、つらいこともあります。でも「遅くまでしょうな」「きれいなものができたな」「ありがとう。きれいになった」というふうに、地域の方や現場を通る方に感謝されることがあるんです。そのときに一番、この仕事に対してやりがいを感じます。

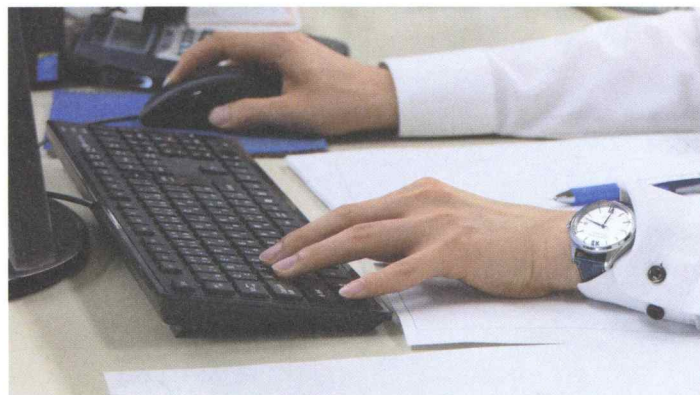
先輩方は仕事に対して一生懸命で、間違えていることはきちんと指摘してもらえます。逆に、今までできていなかったことができると、しっかりほめてくださる方ばかりです。

モットーは「明るく、元気よく」。現場に行くとしても年上の方が多く、職人さんは40代～60代の方もいらっしゃいます。その中で僕はまだ20代前半で、技術ではかないません。ですから、毎日笑顔で元気に仕事をするように心がけています。

昨年(2018年)7月、倉敷市真備町での豪雨災害現場に行きました。家が浮かんでいたり、田んぼの中に転がっていたりする光景を目の当たりにして、これから、特に河川護岸の工事に携わっていきたくて強く思いました。







地元岡山で就職先を探していたとき、たまたま岡山西警察署の建物が気になってアポなしで見学に行きました。西署の方は歓迎して中を案内してくださり、そのときに蜂谷工業が施工したという話を聞いて会社名を知りました。そこから蜂谷工業のことを調べ、設計・施工にも力を入れていることを知り、将来的にここで設計をやってみたいと思いました。着工後、何もないところからだんだん建物が組み上がっていくのを見て、ここの図面は自分が描いたなどと、やりがいを感じています。竣工したときにお客さまから「いい建物ができた」と言っていただけると、さすがに嬉しいです。お客さまや現場スタッフ、業者さんや職人さんと話す

実力というものを感ずます。

蜂谷工業の100周年の

ちょっと街を歩くと、

機会が多いので、やはりコミュニケーションが一番大事だと感じています。意思疎通を図るだけでなく、距離が縮まることで、ちょっとしたことでも話しやすくなります。外に出ると、蜂谷工業がいろんな人に知られていることがわかります。そういったことから、蜂谷工業の100周年の実力というものを感ずています。これまで積み重ねてきた技術力を持っている会社なので、お客さまからも信頼をいただいておりますし、さまざまな技術を要する現場を経験しているという強みがあり、どんな依頼にも対応できます。社内では、日々品質の向上を考えていますので、その点でも自社の持つすごさを感じています。



建築事業部  
技術部

赤野弘幸さん





非常にいいと思います。

腰を据えて長く働ける点が

転勤がないので



建築事業部  
営業部  
立花大輔さん

前職とは異なり、建設業は全く知らない業界だったので、それがネックになるかと思いましたが、逆にそういったところに飛び込むことで、自分が今まで関わることのなかった知識が身に付けられるのではと思っています。

地場で100年続いている会社ですから、企業としてのイメージや信頼という点でも確固たる地位があるでしょうし、中小企業とはいえ、これからどんどん伸びていく可能性も感じています。

転職してまず感じたのは、働きやすさです。休日が確保でき、残業も非常に少ないです。あとは、最近結婚したこともあり、転勤がなく長く腰を据えて働けるというところも魅力的だと思います。職場の雰囲気は風

通しがいいですし、100人ちょっとの社員数で、他部署の方とのコミュニケーションも取りやすいです。

岡山出身ではないのですが、こちらでの友達がたくさんできました。休日は、そういう友達と遊びに行ったり、飲みに行ったりしています。趣味で社会人のバスケットチームに所属し、好きなスポーツも楽しんでいます。前の職場との違いについては、業種が異なるのでひと言では難しいですが、働いている人が人間として善いと感じるところです。社長もそういった考え方を大事にされていて、それが社員に伝わっているのだと思います。つらいことがあったり、わからないことがあったりしたとき、すぐに他部署の方にも相談できるというのも、この会社のいいところだと思っています。



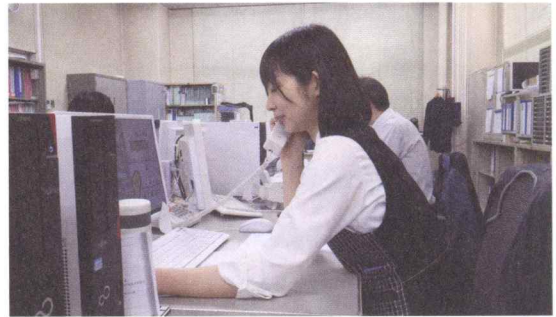
困ったときには

一番に頼ってもらえるような

先輩になりたいです。



総務経理部  
湯浅奈津子さん



地元に戻り、というほど大きなことではないですが、少しでも岡山という街のために働きたいと思い、地域貢献・地域密着を掲げる企業を探していました。そんな中、蜂谷工業はちょうど100周年ということでインパクトがありました。説明会もわかりやすく、ロゴマークも非常に考えて作られていることが印象に残りました。また、手がけた建物をホームページで見ると「あ、知っている」と親しみを感じました。

元々建設業に興味があり、裏方でも自分の関わった仕事が街にかたちとして残るといのは、とても魅力的でした。

「蜂谷工業」という旗がかかっていたり、伝票や書類で見た施工物を見かけたりすると嬉しくなります。

学生時代は授業を受ける側ということもあり、受動的

な態度で過ごすことが多かったのですが、社会人になってからは自分から能動的に動かないと、どんどんわからないことだらけになってしまいます。ですので、漫然と過ごしてはいけないうと、社会人としての視野の重要性を日々感じています。

蜂谷工業のいいところは、しっかりと見ていてくれる人がいる、ということです。自分自身でもいろいろ考えて業務に取り組んでいますが、それに対して「もっとこうした方がいいよ」と声をかけてくださる方が多いです。

私も「どうしたの?」と声をかけてあげられる、困った時には一番に頼ってもらえるような先輩になりたいです。仕事においても「湯浅さんに頼めば大丈夫だろう」と、どこかで思ってもらえる社員になれるよう、道のりは長いですが地道にがんばります。





目指して。

ローカルゼネコンを

誇りある



## 社長メッセージ

代表取締役社長  
蜂谷泰祐

HACHIYA Taisuke

当社は大正6(1917)年3月の創業以来、総合建設業として専心努力を続け幾多の時代を乗り越えて参りました。100年を超える歴史の過程は、決して楽な時ばかりではありませんでした。

例えば、2008年のいわゆるリーマンショックと呼ばれる世界規模の金融危機では、非常に厳しい状態になりました。工事件数が激変したのです。

そんな中でも、「社長、我々も頑張りますから、一緒にやりましょう。」と社員全員で支えてくれました。そういう支えがあったからこそここまで来られたんだと思います。この社員のためにも、まだ見ぬこれから入ってくる若



い社員たちのためにも、この企業を何としてでも継続し、発展させていく。そして次の100年も、立派な会社、世間から尊敬されるような会社にしていく。これが、私に課せられた役目だと思っています。

経済情勢が大変厳しい昨今、総合建設業は、『高品質』『信頼性』『競争力』が市場で求められています。同時に、環境問題に積極的に取り組んでいくということも大きな問題です。

当社は『お客様に満足していただける最良のものを提供する』を会社の経営方針の1つとして掲げ、建築・土木・舗装・環境設備・リニューアルの各分野におきまして、多岐にわたる市場のニーズにこたえ、社会に貢献できる企業を目指しています。

そのために、私は「目指すは誇りあるローカルゼネコン」と言っています。



以前、私が勤めていました会社は、1兆5,000億ぐらいやっているスーパーゼネコンで、大変素晴らしい技術屋さんがいて、我々び足元にも及ばないような仕事をしています。それはそれで素晴らしいことです。でも、日本の産業の9割以上を支えている地方のステージにおいて、体を張ってというか、地域と共に行っている仕事というのはそれと同格で、大変素晴らしい仕事だと私は思っています。

私は首都圏に行って、たくさん仕事量を上げていくということだけが仕事の目的だとは思っていません。地域にいて、みんなと一緒に歩いていく。

例えば建設業の一つの役目として、災害が発生したときや大雨のときに我々が出動する。そして、どこかで

「蜂谷工業の人が助けに飛んできてくれたな」とか、「町をよくしてくれたな」とか、一言でも二言でも町の人々の口からそんな言葉が出てくる、そんな会社であれば、私はもう大満足です。そうすれば、社員たちも喜んでくれると思います。自分たちの子どもに、「うちのお父さん(お母さん)が行っているところは

いい会社だ」と誇れる、そういう部分において地域で1番になりたいとは思っています。

これが、私が選択した一つの自分の生き方なのです。昔、東京支店もあり、大阪支店を出したいと思っていた時期もあります。こちらに帰ってきて、社長になる前までにいろいろ模索をしていた時期がありました。でも、ふとそういうことだけが生きる道ではないなと。地域で愛されるゼネコンになればいいじゃないかと思ったときに、会社を大きくするという事業欲みたいなものはなくなりました。量より質というか、会社をよくするというか、立派な会社と言われるところに力を注いでいきたいなど。

今は、そこからぶれずに一生懸命努力しています。まだまだ志半ばではありますけど。

私たちは「誇りあるローカルゼネコン」を掲げ、自分たちのまちを創り、守る仕事にやりがいを感じています。日本の産業の9割以上を支えている地方のステージにおいて、体を張って、地域のために行っている仕事は、大変素晴らしくやりがいのあることだと思っています。

ぜひ、自分たちのまちを自分たちの手で創り、守っていきましょう。







総合建設業

蜂谷工業株式会社

